

授業科目 精神障害作業療法評価学実習

【担当教員】 長谷川 利 夫		対象学年	2	対象学科	作業
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 精神障害に対する作業療法の評価を実施するために、主に方法と実施を体験し、必要となる基礎的な知識・技能・態度を身につける					
【学習目標・行動目標：SB0】 1 検査について症状評価、社会機能評価などについて数種類施行でき活用方法について述べるができる 2 観察について構造や形態について述べるができる、リスト等を使用し患者を想定し健常者に観察することができる 3 面接について構造や形態について述べるができる、患者を想定し健常者に面接することができる 4 構成的作業面接と投影的作業面接について特性や手順が述べられ、患者を想定し健常者に施行でき、その活用方法について述べるができる 5 提示した症例から、カンファレンスチャートを使用しその障害構造や問題点を明確にし焦点化まで記述できる。 6 精神障害に対する作業療法の評価項目を書式にまとめられ評価用紙として提出できる					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	症状評価			1-5	講義、実習
2	社会機能評価（１）			1-5	講義、実習
3	社会機能評価（２）			1-5	講義、実習
4	社会機能評価の検討			1-5	講義、実習
5	構成的面接（１）			1-5	講義、実習
6	構成的面接（２）			1-5	講義、実習
7	作業面接（１）			1-5	講義、実習
8	作業面接（２）			1-5	講義、実習
9	観察（１）			1-5	講義、実習
10	観察（２）			1-5	講義、実習
11	評価様式			1-5	講義、実習
12	カンファレンスチャート			1-5	講義、実習
13	症例（１）			1-5	講義、実習
14	症例（２）			1-5	講義、実習
15	まとめ			1-6	講義、実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		精神障害と作業療法第2版	山根寛	三輪書店	2003
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 出席、授業態度、レポート、定期試験等から総合的に判断する。			【履修上の留意点】		